

薬学部の修学状況

2024年12月に文部科学省(文科省)が薬学部の修学状況などを2024年度調査として公開しました(文科省のホームページ参照)。本内容は日経ドラッグインフォメーション2025年2月号でも紹介されているのですが文科省が公開している調査結果を基に私なりにまとめてみました。本ニュース541号の続編のようなものになります。皆さんの卒業された大学名が出てきて不快な思いをさせるかもしれませんが、あくまでも文科省が公表した現在の母校の修学状況としてとらえてください。

1) 文科省が公開した調査結果の概要

基本的には**2018年**に全国の大学薬学部に入学者のその後を追跡調査したもので、多くの項目に分かれています。私は2018年に**入学した学生数(A)**、その彼らが無事に**卒業した数(B)**、そして卒業した彼らがその年の**薬剤師国家試験に合格した人数(C)**をピックアップしてみました。

それぞれの数値の意味するところは下記のようになります。

A-B : 卒業するまでに留年したか退学した人数。

(A-B)/A : 卒業できなかった非卒業比率(%)

C/A : 入学時の人数に対する国家試験の合格率(%) ⇒文科省が表記しているのはこの合格率

C/B : 卒業した人数に対する国家試験の合格率(%)

卒業できた学生が国試を合格する率は基本的には入学した学生が国試を合格する率より高くなります($C/B \geq C/A$)。意図的かどうかは分かりませんが、文科省は卒業した学生の合格率(C/B)を表記していません(もちろん計算すれば分かるのですが)。入学させた人数が多いにも関わらず国試合格率が低いのは大学側に問題があると文科省は指摘しているかのようです。

2) C/BとC/Aの乖離が大きい大学とは(私立大学)

一概には言えないかもしれませんが数多くの学生を入学させて6年間に授業や実習についていけない学生は留年や退学にし、学力のある学生を卒業させて国試の合格率を上げている大学というイメージが出てきます。以下、私の**独断的な定義**として**乖離が大きい大学**ほど国試の合格率を上げるために**卒業生数を調整**している大学とします。そこで以下に私立大学での乖離の大きい順(具体的な数値は未表示とします)で並べてみました。文科省が公表している内容なので大学名も記しておきます。

大学名	入学数	卒業数	非卒業率	国試合格	対入学(C/A)%	対卒業(C/B)%
日本薬科大学	278	73	73.7%	62	22.3%	84.9%
第一薬科大学	182	59	67.6%	53	29.1%	89.8%
横浜薬科大学	388	144	62.9%	137	35.3%	95.1%
九州医療科学大学	92	38	58.7%	36	39.1%	94.7%
兵庫医科大学	165	62	62.4%	53	32.1%	85.5%
青森大学	39	13	66.7%	10	25.6%	76.9%

卒業生だけみると合格率(C/B)は90%越えも2校あるくらいに合格率は高くなっていますが、一方で**非卒業率**はほとんどが6割以上と学生やその親にとっては厳しい現実があるようです。

3) 逆に乖離の小さい大学とは(私立大学)

大学名	入学数	卒業数	非卒業率	国試合格	対入学(C/A) %	対卒業(C/B) %
北里大学	264	250	5.3%	221	83.7%	88.4%
星薬科大学	263	238	9.5%	209	79.5%	87.8%
慶応義塾大学	157	136	13.4%	119	75.8%	87.5%
安田女子大学	101	83	17.8%	58	57.4%	69.9%
奥羽大学	113	86	23.9%	47	41.6%	54.7%
京都薬科大学	407	348	14.5%	321	78.9%	92.2%
福岡大学	231	197	14.7%	180	77.9%	91.4%

乖離の小さい上位7校の私立大学を小さい順に上げてみました。乖離が小さいほど卒業生調整をあまりしていないと思われ、合格率の高い私立大学が多くあります。しかし、その中で4番目と5番目にある安田女子大学と奥羽大学は国試の合格率がそもそも低いので乖離が小さいからと言っても必ずしも合格率が高いとは言えず、国試合格の学力がなくても卒業はさせている印象があります。

4) 国立大学の乖離の小さい順では

大学名	入学数	卒業数	非卒業率	国試合格	対入学(C/A) %	対卒業(C/B) %
東京大学	10	10	0.0%	10	100.0%	100.0%
東北大学	20	20	0.0%	18	90.0%	90.0%
京都大学	15	15	0.0%	13	86.7%	86.7%
金沢大学	36	35	2.8%	33	91.7%	94.3%
千葉大学	43	41	4.7%	36	83.7%	87.8%
北海道大学	30	28	6.7%	25	83.3%	89.3%
九州大学	31	28	9.7%	24	77.4%	85.7%
広島大学	40	36	10.0%	35	87.5%	97.2%
大阪大学	25	22	12.0%	21	84.0%	95.5%
熊本大学	55	47	14.5%	39	70.9%	83.0%
徳島大学	45	39	13.3%	36	80.0%	92.3%
岡山大学	41	35	14.6%	31	75.6%	88.6%
富山大学	60	50	16.7%	46	76.7%	92.0%
長崎大学	44	30	31.8%	30	68.2%	100.0%

国立大学では国試合格率アップのために卒業生数を調整しているイメージは無いので順位が下の大学は卒業できない学生が多い事実を反映していると考えられます。とりあえず次項の公立大学の数値から非卒業率が20%未満であれば卒業生調整をしていないと考えると長崎大学の非卒業率は30%超えて他国立大学より多く、かつ卒業生の合格率が100%なのでまさかとは思いますが気になります。

5) 公立大学の乖離の小さい順では

大学名	入学数	卒業数	非卒業率	国試合格	対入学(C/A) %	対卒業(C/B) %
静岡県立大学	93	84	9.7%	75	80.6%	89.3%
山口東京理科大学	119	102	14.3%	95	79.8%	93.1%
名古屋市立大学	61	52	14.8%	50	82.0%	96.2%
岐阜薬科大学	132	108	18.2%	100	75.8%	92.6%

公立大学はほぼ国立並みデータなので卒業生調整はしていないと考えられます。(終わり)